



岡 津



令和3年度のキーワード

「つなぐ 自らの成長を自覚し、適切に行動できる岡津っ子」

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/okazu/>

検索



学校だより 11月号
令和3年10月29日
横浜市立岡津小学校
校長 宮路 ますみ
TEL 811-4104
FAX 812-4586

姿、形の中の「心」を大切に

副校長 松谷 隆広

秋が深まり、朝夕は肌寒いと感じるようになりました。このような時期は、夏の暑さや冬の寒さのような過ごしにくさがなく、いろいろなことに挑戦するのに最適です。「芸術の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」等と言われるように、日頃より気になっていることや新しいことに挑戦したり、今まで取り組んできたことにより一層熱中したりしてみるのも良いでしょう。

さて、私たちは新しいことに挑戦して努力を続けていくと、できることが増えていきます。人が生を受けてから成長していく過程では、誰もがいろいろなことに興味をもち、挑戦し続けて様々なことを獲得し、心身ともに成長します。ただ、姿、形の変化は目に見えるので分かりやすく、心の変化は目に見えにくいので注意深く観察しないと気がつきにくいものです。私たちは、目まぐるしく変化していく時代の中で忙しい毎日を通すうちに、目に見える成果にとらわれ、心の変化について見落としてしまっていることがあるかもしれません。

私たちは食後や寝る前に当たり前のようには歯を磨いています。ごく自然と行っていて習慣と呼ぶことのできる行動の一つです。これは一体いつ頃から身についたのでしょうか。自分で歯を磨くことができなかった幼い頃には、膝の上に仰向けに寝かされて磨いてもらった記憶がある人もいることでしょうか。自分で磨けるようになってからは周りの大人から「磨きなさい。」と言われてから嫌々磨いていたのに、いつの間にか言われなくても自分から磨くようになっていったはずですが、それは「磨きなさい。」と言われなかったからでしょうか。虫歯になって痛い思いをしたからでしょうか。そのような外因的な理由からだけではないと思います。

自分から進んで歯を磨く習慣のある人は、おそらくは歯を磨いた後の口の爽快感を知り、内面的な動機から習慣化することができたのでしょう。必要感があり、前向きに取り組んだ結果、身につけていったと考えられます。

このように基本的な生活習慣というものは、外因的な理由からではなく、内面的な「心」を伴って始めて本当に身についたということができるものです。温かみのある挨拶やしっかりとした礼を交わし合う心地よさ、大人から言われる前に宿題や自宅学習に取り組むことができたときの爽快感、走り続けた後にゆっくり呼吸を戻していく時の達成感など、その姿、形だけを求めるのではなく、その行為の内にある「心」と関連させて育てていくことが大切なのではないでしょうか。

昨今、コロナ禍で制限の多い時代になりました。このような時代だからこそ、より一層、目に見える成果だけでなく、その中にある「心」をどのように育てていくかを大切にしていかなければならないと考えております。この秋、創立100周年記念式典、岡津っ子スポーツDAYという大きな行事に向け、緊急事態宣言が明けた限られた時間の中で、練習から前向きに取り組んでおります。その中でさまざまなことを経験して、それを乗り越えて心身ともに大きく成長して欲しいと願っております。

ぜひ、ご家庭でもお子様ががんばったことを認め、「心」の変化を感じて、価値づけていただければ、大変ありがたいです。ご理解とご協力をお願いいたします。